

歴史散歩

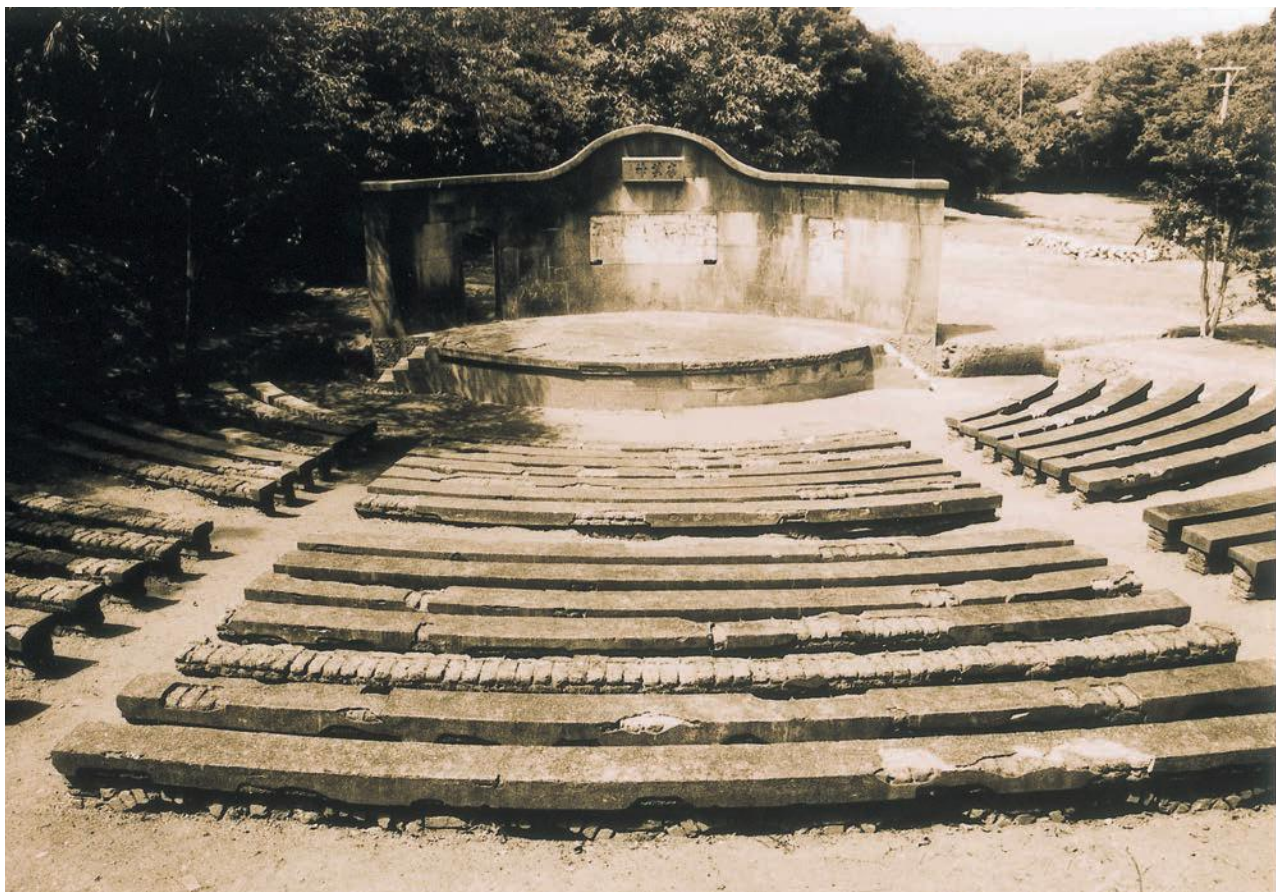
れきしさんぽ°No.23

平和への願い・久留米の戦争遺跡（2）

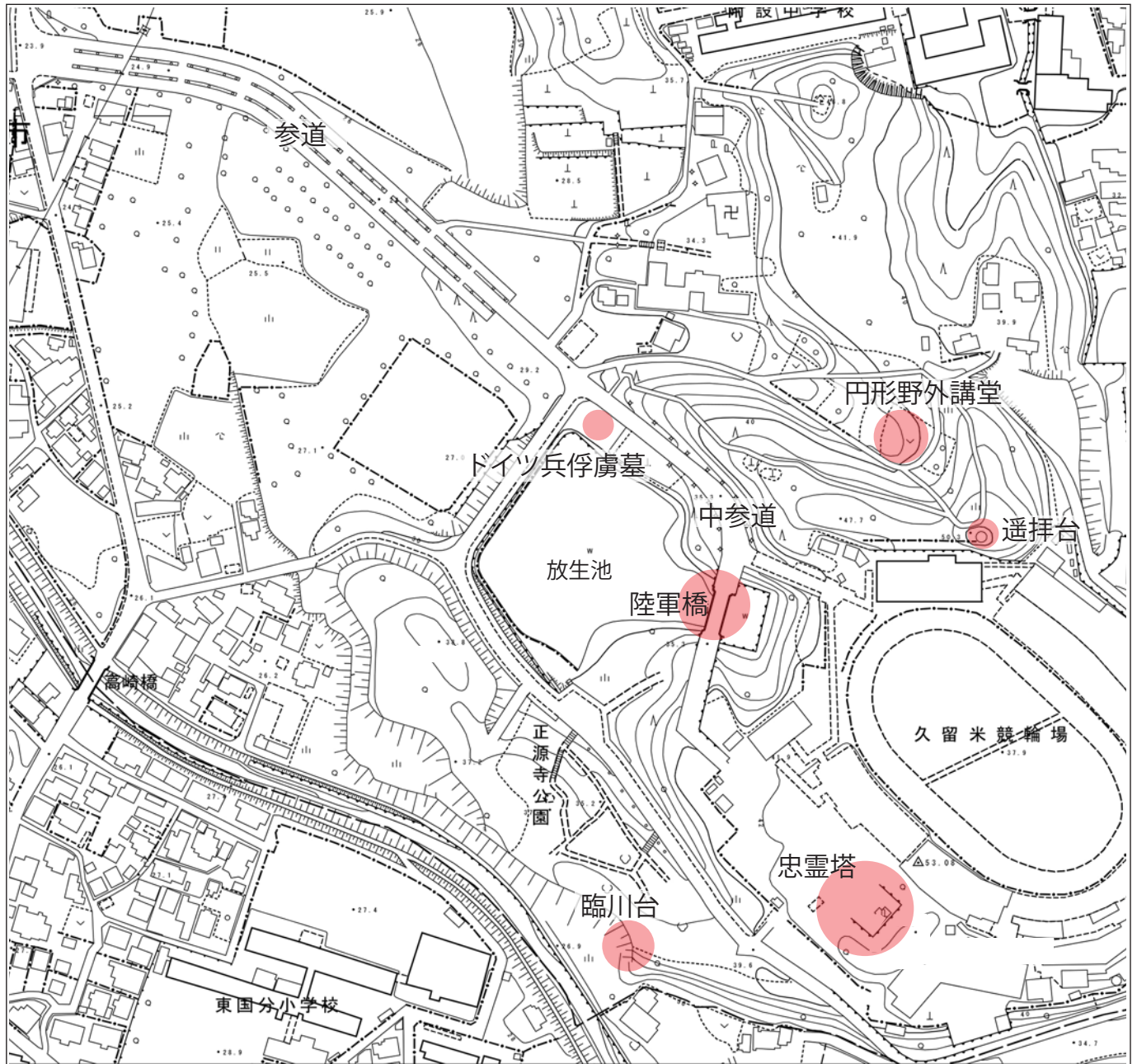
陸軍墓地 久留米市野中町

久留米市野中町の陸軍墓地は昭和14（1939）年7月に着手し、2年9か月の歳月と経費25万円、延11万2千人の勤労奉仕によって完成したものです。同17年4月10日に竣工式及び鎮靈式が新墓地で行われています。敷地は約71,000m²あり、忠霊塔、遥拝台、野外講堂、陸軍橋、放生池、臨川台、参道などの遺構が残ります。現在は大半が久留米競輪場の敷地になっています。

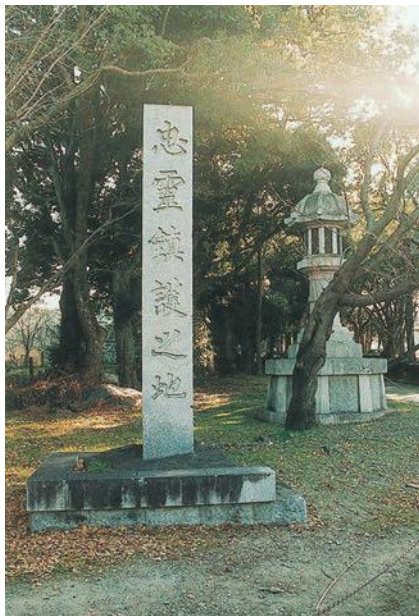
この建設には久留米連隊区司令部の所轄範囲である筑後二市六郡及び佐賀県佐賀市、小城郡、東・西松浦郡、三養基郡、神埼郡など広域の市町村がこの建設に資金や労働力を提供しました。陸軍が主導しましたが地域の勤労者、生徒、町内会、愛国婦人会、企業など各種団体が動員され、また自発的に建設に携わったことが当時の記録から分かります。久留米市も建設費として16,413円を負担し、この陸軍墓地の建設に深く関わっています。



野外講堂 全景

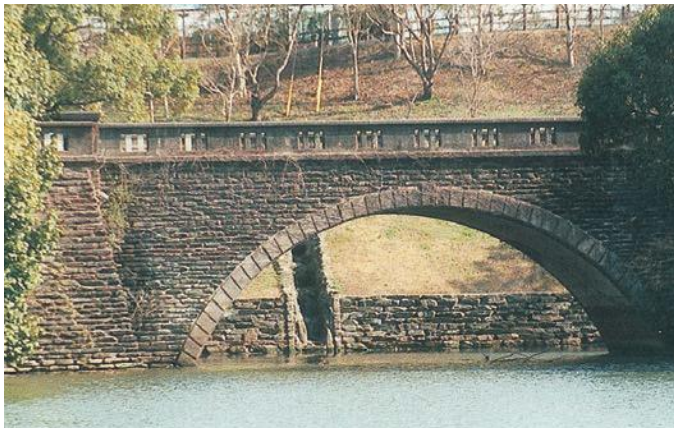


陸軍基地遺跡配置図



参道入口の忠霊鎮護之地碑

参道 表参道と中参道からなり、参道入口には靖国神社の大灯籠を模した灯籠が置かれています。参道は車道と歩道に分かれ幅28mあります。約275m東進すると歩道がなくなり、中央の幅10mの道だけになります。そこから中参道が湾曲して忠霊塔前の広場まで約200m延び、放生池に架かる陸軍橋もこの参道の一部です。陸軍橋までの参道には春日灯籠が北側21基、南側15基が並びます。この参道には玉砂利が敷かれていたようです。参道の楠木は昭和15年11月に久留米旭屋社員の奉仕で植えられ、同16年7月には久留米郵便局職員が購入した栗・银杏・山桃などを参道右側に植栽しています。



放生池と陸軍橋



陸軍橋

陸軍橋 放生池に架けられた高さ15m、幅8m、長さ21mの橋です。外観は緑泥片岩を積上げたように見えますが、鉄筋が入らないコンクリート造のアーチ橋です。欄干の親柱には「陸軍橋」「昭和十七年四月竣工」の銘があります。



揺拝台 全景

揺拝台 裾広がりきょくわがりの円柱状をなし、高さ4.8m、底部径6m、屋上径5.8m。赤レンガを積み上げ、内部の螺旋階段らせんを登ると屋上中央に遥拝塔きゅうじょうようはいが設置されています。西面した方形の花崗岩標柱に「宮城遥拝」が刻まれ、東方に向かって参拜することになります。



宮城 揺拝塔

野外講堂 直径22mの円形野外講堂です。500人を収容する規模です。ステージとベンチが円形に配置され周囲が土塁で囲まれていたことから円形講堂と呼ばれています。構造は鉄筋を使用せず、ガラレンガ(セメントレンガ)を積み上げモルタル仕上げをしています。ステージは円形をなしそれに球面を呈する壁面が立ち上がり、壁には2箇所の黒板が設置され、ステージ中央の演台痕跡からもこの講堂が講演・集会の機能を持つことが分かります。ステージ背後には楽屋もありました。

ベンチはステージを扇の要にして3列に配置され、それらは上下の2ブロックに分かれ、周囲には通路が廻っています。ベンチ平面は曲面をなし、脚部もアーチ形をしています。ステージ、背面の壁の球面、ベンチの全体配置、脚部のアーチなどに見られる円を基本とした設計理念は特徴的です。昭和前期のこのような遺構は類例がなく極めて貴重なものです。



忠霊塔全景



忠霊塔前の広場におかれた手洗鉢



ドイツ兵俘虜墓



臨川台

忠霊塔 ちゅうれいとう 陸軍墓地の中心となる施設です。基壇からの塔の高さ17m、幅3mの徳山産の花崗岩に渡辺正夫陸軍中将揮毫の「忠霊塔」が彫られています。納骨所の高さ6m、幅8m、正面幅23mありその外面は花崗岩を張詰めています。山川町旗崎の旧陸軍墓地から移された4,030柱と新たに合祀された1,018柱、合わせて5,048柱が納骨所に安置されています。また山川陸軍墓地にあった墓石は塔の背後に埋められています。忠霊塔前広場は玉砂利でした。入口左手にある手洗鉢は浮羽郡水繩村みつのむら(久留米市田主丸町)から戦車で引かれてきたものです。

ドイツ兵俘虜墓 ふりょ 大正3(1914)年の中国青島を戦場とする日独戦争で俘虜になったドイツ兵の一部は久留米俘虜収容所に5年3か月収容され、その間に11名が死亡しています。墓は山川陸軍墓地にありましたが、陸軍墓地の移転とともに忠霊塔の裏山に移されました。戦後は競輪場選手宿舍敷地内にありましたが、平成9年4月正源寺池のほとりに移転整備されています。

臨川台 りんせんたい 現在は正源氏公園の一角です。眼下に高良川が流れ、国分町方面を一望できる地点に長方形の突出部を造り展望台としています。コンクリート製の手すりと花崗岩製のベンチが置かれています。展望台から階段を下ると小公園となっており、高良川との境に「陸軍」境界標が残っています。

■参考文献

久留米市教育委員会『円形野外講堂』2004

◆ 歴史散歩 No23 ◆

平成17年3月31日発行

発行 久留米市教育委員会

〒830-8520 久留米市城南町15-3

教育文化部文化財保護課 0942-30-9225

久留米市埋蔵文化財センター 0942-34-4995

久留米市文化財収蔵館 0942-38-6194